

(議事要旨 2) 企業会計基準委員会の最近の活動状況について

企業会計基準委員会 (ASBJ) の西川委員長及び小賀坂副委員長より、ASBJ の最近の活動状況についての報告が行われた。

その後、以下のとおり、基準諮問会議の委員より意見が出された。

- のれんの会計処理について、IASB において IFRS 第 3 号の適用後レビューが行われているが、ASBJ ではどの様に取り組んでいるのかお聞きしたい。IFRS のエンドースメント手続の中での論点として、のれんの会計処理があがっており、そちらで削除又は修正をする方法もあろうかと思われるが、IFRS 第 3 号の適用後レビューの中で意見を出し、IFRS の改正を促す進め方もあるのではないかと。
- 最近の活動状況について、当期純利益・リサイクリング・のれんの償却に関する意見発信が特に重要であると考えている。これまでも多大に努力していただいているところでもあり、数年前に比べれば遥かに我々の意見が反映されるようになってきており、引き続きお願いしたい。
- IFRS のエンドースメントについて、いつ頃公開草案を出す予定であるか。また、コンバージェンスについては、どのようなタイミングから議論を開始していくのか。また、今後行われるコンバージェンスにおいて、基準諮問会議はどのような役割になるのか。

これらの意見を受け、ASBJ 小賀坂副委員長より以下の発言がなされた。

- 適用後レビューについては、日本の実情をしっかりと把握して伝えていくことになる。ASBJ では、現在、IASB からの情報要請を和訳して国内の関係者から情報を集めることを開始している。のれんの会計処理については、IASB だけでなく FASB でも議論が行われており、タイミングをとらえて意見発信を行っていく。
- IFRS のエンドースメントについては、昨年の夏に開始したときに、今年の秋までを目標とするとしており、容易ではないものの目標は変更していない。最終化までに公開草案を出す必要があるが、コンセンサスを十分図る必要があり、時期は明確ではない。
- 今後のコンバージェンスについては、正式に議論を行っていないが、大きな方向性について関係者でコンセンサスを得る必要があると考えている。基準諮問会議の役割としては ASBJ の大きな方向性についてご意見を伺っていくことになるのではないかと。

また、ASBJ 小野委員長代行より以下の発言がなされた。

- コンバージェンスについては、今後、方向性を出していく必要があるが、現状では、IFRS のエンドースメント手続を着実に進める必要がある。

以 上